

## 校外教育 研究紀要

### 《研究主題》

主体的に学ぶ児童生徒の育成  
～ 地域の教育活動を活かした豊かな体験活動を通して ～



### 城山学園

坂戸市立城山小学校  
坂戸市立城山中学校

〒350-0246 坂戸市大字多和目788番地



電話 049-286-2789

049-285-9930

FAX 049-271-3657

E-mail sirosho@edu-city-sakado.saitama.jp

sirotyu@edu-city-sakado.saitama.jp

## 1 学校概要

本校は坂戸市西部に位置し、坂戸市最高峰である城山があり、秩父山系から清流として知られる高麗川が南西から東へと流れている、自然豊かな場所である。

平成 27 年 4 月、城山小学校を城山中学校の敷地内に移転し、小学校と中学校が同じ敷地内で一体的に教育活動を展開した、県内公立校で初となる施設一体型小中一貫教育校「城山学園」として本校は開校した。「城山学園」では、小学校と中学校の 9 年間の系統性・継続性を重視し、児童・生徒の発達段階を踏まえた教育活動を通じて、「学力の向上」と「豊かな心の育成」を目指している。

## 2 研究の概要

### (1) 研究テーマ及びテーマ選定理由

テーマ：主体的に学ぶ児童生徒の育成

～地域の教育活動を活かした豊かな体験活動を通して～

選定理由：本校は施設一体型の小中一貫教育校「城山学園」として創立 8 年目をむかえた。児童生徒の人数の減少に伴い、子供同士が良好な人間関係を築きあげるだけでなく、地域の方々との交流により「生きる力」を育むことが重要である。本校は学校応援団の協力が充実しており、年間を通じて豊かな体験活動の機会に恵まれている。また、近隣の城西大学からも地域ボランティアとして活動する学生との交流も盛んである。このような環境をさらに充実させ、児童生徒が学んだことを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力」を身につけさせたいと考える。

### (2) 研究計画

#### ○研究のねらい

地域行事の参加や地域の施設、教育機関との交流や連携を通して、児童生徒が子供同士だけでなく、教師や地域の人との対話を通して自分の考えを広げて深めていくような「学びに向かう力」の育成を図る。

#### ○スケジュール

通年：ステューデントインターンシップによる城西大学学生の学習支援

通年：学校応援団読書ボランティアによる朝の読み聞かせ

5 月：児童生徒の意識調査

：学校応援団による応援メッセージ掲示

春：野菜の種、苗植え（2, 3, 4 年）

6 月：埼玉医科大学産婦人科医による「命の授業」（4 年）

秋：野菜の収穫手伝い（2, 3, 4 年）

10 月：西坂戸自治会、城西大学ボランティア主催のハロウィンパーティー

10 月：学校応援団緑化ボランティアと連携した花の植え替え（小中）

10 月：ピースミュージアムによるピースキャラバン「出前授業」（3, 4 年）

11 月：理科「流れる水の働き」のジオラマ制作および実験協力（5 年）

11 月：街探検（2 年）、琴の出前授業（4~6 年）

12 月：車椅子体験

12 月：城西大学と連携したプログラミング学習

12 月：城西大学薬学部サークルによる薬物乱用防止教室（5, 6 年）

3 月：研究紀要の作成

## ○期待される成果

- ・地域の人々との交流を通して、学ぶ対象に興味関心を持ち、学校での学びを社会へとつなげる児童の育成
- ・地域の人々との交流により、他者を理解し思いやる心の育成

## 3 研究の取組

### (1) 教科学習での取組

#### ① 埼玉医科大学 助教 高橋幸子先生による「命の学習」

本校では近隣の毛呂山町にある埼玉医科大学の産婦人科助教である高橋幸子先生をお招きし、保健教育のゲストティーチャーとして「命の学習」を毎年実施している。対象学年は思春期を迎える4年生と9年生（中3）とし、保護者参観のもとで今年度も実施した。9年生の学習は性のジェンダーから妊娠、出産までの内容を具体的にご指導いただき、児童生徒が正しい知識を身につけることで、自分の身を守るために必要なことを学ぶことができた。

本校は小中一貫教育校であるため、全ての教科、領域についても小中あわせて9年間の系統的な学習活動を展開することが特色である。性教育のような保健学習についても、小学生のときに学習した内容が中学校段階で発展的になり、それを同じ校舎で数年後に学ぶことが可能である点も児童生徒にとっては貴重な機会となっている。



#### ② 高校教諭による体験出前授業

近隣の私立中高一貫校である埼玉平成高校の先生をお招きし、9年生は出前授業を体験した。授業内容は「入試等に役立つ作文術」で、最後には入試問題の作文を全員で行った。次に川越工業高校デザイン科の先生による「色についての授業」を体験した。5つのマスに好きな色を塗っていき、塗った色によって「現在の自分」「過去の自分」などの気持ちや立場などが見える役割があるということを知ることができた。9年生にとっては目前となった進路選択に役立つ機会であると同時に、多様な学びを体験することができた。



#### ③ e-サイエンスコミュニケーションによる放射線について の出前授業

e-サイエンスコミュニケーションの舟生先生をお招きして、8年生を対象にして放射線についての授業を実施した。テレビや新聞等で話題となる放射線、放射能、放射性物質といった言葉の意味の違いを理解するだけでなく、実際に人口放射線を霧箱の中から観察する機会もあり、科学技術に関する知識を深めることができた。



#### ④城西大学 プログラミング教室

城西大学 現代政策学部 柳澤 智美先生をお招きして、5年生を対象にプログラミング教室を行った。城西大学は校区である。今年度は柳澤先生と城西大学の学生も参加し、コミュニティサイトのScratchを使ってプログラミング学習の基本的な操作方法について学習した。GIGA スクール構想に伴い、主体的、対話的で深い学びの実現に向けたタブレット端末の活用にもって有意義な時間となった。



#### ⑤城西大学 陸上部による陸上教室

今年度から城西大学の陸上部と連携を図り、大学生による陸上教室を行った。坂戸市では小学校5、6年生が学校の代表となり、連合運動会に出場する。今年度はコロナ禍により自校による記録会ということになったが、子供たちは学生たちから陸上の楽しさを分かりやすく教えていただき、丁寧な指導により熱心に練習に取り組み、自己の記録を更新することができた。



## (2) 地域との交流

### 学校応援団の皆様との環境美化活動

本校の学校応援団は三つの組織(緑化、読み聞かせ、見守り)からなっている。その一つである緑化ボランティアの指導のもと、5、6年生は4月に入学する新1年生の入学をお祝いし、毎年チューリップでおもてなしをしている。また、中学校の緑化活動は生徒から花の植え替えボランティアを募り、プランターの植え替えている。毎年奉仕作業の一環として小中学生が参加し、充実した体験活動ができています。



また、今年度は特別支援学級の自立活動として、地域の協力者の方からいただいたパパイアの苗を植える活動を行った。結果としては収穫に至ることができなかったが、作物を育てることの難しさや大変さについて経験することができた。

## 4 成果と課題

### (1) 研究の成果

近隣の城西大学や埼玉医科大学の先生方による出前授業では、専門的な知識や経験による指導により、学校での学習だけでなく実際の仕事とのつながりについて講師の具体的な経験から学ぶことができた。また、日頃からお世話になっている学校応援団の方との活動をとおして、地域の方々とのふれあいを図ることができ、豊かな心の育成につながっている。

### (2) 今後の課題

体験学習をさらに充実させていくためには、通常の学習とのつながりを意識した学習指導が必要となる。そのための事前学習や事後の振り返りを行うことで貴重な学習機会をさらに充実させていく必要がある。